

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

14 (通巻18号)

平成16年3月25日発行

【目次】

こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - “ ” は、なに?	1
こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - “新選組”を調べる	2
市町村のみなさんからの発信 国境の街の図書館員 《手記》 根室市図書館 浅野正弘氏	3
<10年経験者研修>報告	4
市町村図書館職員レファレンス体験研修・3年間のあゆみ.....	7
News	9
1 課員動勢 <各種研修に参加>	
2 「レファレンス体験研修」48,49,50人目の方々受講	
3 平成15年度10年経験者研修一行当館へ	
4 当館ホームページの参考調査課情報	
5 参考調査課のメールアドレス変更	
ご存知でしたか? 学習指導要領と図書館.....	9
編集後記	10



こんなのきました - 参考調査課によせられたレファレンス - “ ” は、なに？

楽勝！と思い、調べ始めて意外に手こずる、または、遠まわりしてしまったということがままあります。それはそれで 学習した ことになり、進化する…となれば レファレンス道も楽し というものですが。

さて、質問は 同上の意味の『 』の呼び名はなにか？ というものでした。質問者は別件照会に次ぐ、「では、こんなことも分かるの？」という二度目の調査依頼です。『 』は、日本語だから…はりきって国語辞典類で調査開始。ところが、くり返し点、踊り字 などのキーワードでは『国語の書き表し方』(文部省 元資料：昭和 25 年)中の〔くり返し符号の使い方〕で『々』などを見つけただけです。名称が不明なので、語彙からは辿れない。では、出版関係からはどうでしょう。

『新編出版編集技術 上巻』(日本エディタースクール出版部 1997) の点、また、事務用手持ちの資料ですが、『漢字・仮名・記号テキスト』(佐々木光朗著 共同文化社 2001) 同じく、チョンチョン、『本づくりハンドブック』(共同印刷ほか 発行年不明 無料配布の印刷会社のテキスト様のもの) 同じくチョンチョン とあります。しかし、呼び名 としてはどうもピンときません。

ここで少憩。自席で、我が座右の『旺文社国語辞典 第9版』でもみるかあと…手に取ったところ、なんと巻末付録「国語表記の基準」に〔くり返し符号の用い方〕の詳細な記述があり『 』『々』など5つの例示があったのです。そして、『 』も。それによると、『 』はノノ点といい簿記にも文章にも用いること、そして備考には《外国で用いられる『 』から転化したものであり、その意味はイタリア語の Ditto 即ち「同上」ということである。なお国によって『 』の形を用いる》と。これで疑問は氷解。そうなれば、次の手は簡単。他の資料で検索しましょう。

『広辞苑 第5版』(岩波書店 1998) ノノ点、『日本国語大辞典 第2版 第10巻』(小学館 2001) ノノ点。

さらに確認すると、『JIS 漢字字典 増補改訂』(日本規格協会 2002)の漢字コードにもあり、名称は同じく記号。また、「現代人のための日本語常識大百科」(講談社 1982)ではノの字点、『文書事務ハンドブック』(道教委発行 事務用)ではのの点、『岩波日本語使い方考方辞典』(岩波書店 2003)ではノノ点、と、思いがけず多様な結果がでました。くり返す符号の用い方を踊り字法ということも分かりました。また、最後の『岩波日本語…』には「くり返し符号」について詳細な記述(p166~170)があり、『 』は従来はなかった 新例(と言っても昭和21年3月文部省案)であるようです。現在のところ、くり返し符号の使い方を定めている正式な決まりはないとも説明されています。

また、表や簿記に限って用いるとした資料もあり、『旺文社国語…』(=文部省案)とは少し違います。単純に思える質問に戸惑ったことになりましたが、時として、無料配布の簡便な資料でもツールになるし、類書があってもツールを使い併せることは鉄則なのでした。

調査が手詰まりの時には、過去の記憶や、他館のレファレンス事例集を手繰ることもあります(ちなみに、当課では2、3館の事例集標題をカード化している)。後で確かめたことですが、レファレンス広報誌の先達『しらべま専科 No.3』(都立多摩図書館 1992.12)には『々』『 』の読み方の事例があります。コメントに《以前に似たような調査をした記憶があった、レファレンスは経験することの大切さを感じた》とあり、頷けます。が、また、個々のケースを全体の体験とする方策は、悩ましい課題でした。その趣旨から「レファレンス協同データベース実験事業」(国立国会図書館 公共・大学・専門図書館 1月30日現在147館参加)が始動するとのことで、先頃、当館も参加承認されました。遠大なデータベースが 効果的な共通ツール になる日は近いのでしょうか？

こんなのあります - いちおしレファレンス・ブック - “新選組”を調べる

今年はNHK大河ドラマが「新選組！」ということもあり、関連資料の貸出しが増えているのではないのでしょうか。

「新選組」はテレビ・映画等で何年かに一度はブームがあり、また根強いファンも多いことあって、当館でも「新選組」関連資料を多く所蔵しています。関連の事項調査もあり、参考資料も用意しています。

今回は、それらの当館所蔵「新選組」の参考図書から出版年の比較的新しい資料を紹介します。

『新選組事典』(歴史と文学の会編 勉誠出版 2003 267p ㊦:210.58/SH)

新選組に関する代表的な戦闘録、経営録、要人列伝、隊士列伝、関係する人物誌、地縁記などを収録。経営録には、「新選組と新撰組、どちらが正しいか?」といった記事があり、読む新選組事典である。

付録に「新選組を描いた文学作品一覧(年代順リスト)」、「新選組参考文献一覧」、「新選組の史跡・資料館案内」あり。

『新選組大人名事典 上・下』(新人物往来社 2001 2冊 ㊦:210.58/SH/1-2)

新選組隊士535人、関連人物323人を収めた人名事典。近藤勇、土方歳三、沖田総司といったメジャーな隊士たちには紙数に制限が設けられたが、そうではない一般の隊士についてはほぼ制限なしで執筆されている。また出来事の羅列だけでなく、該当する記録を引用し記述の根拠を明らかにしている。

下巻巻末には、文久3年から明治2年に至るまでの各種隊員名簿を掲載。隊士の入隊・離隊時期の特定理由を確認できるようになっている。

『新選組史跡事典 東日本編』(新人物往来社 2002 260p ㊦:210.58/SH)

『新選組史跡事典 西日本編』(新人物往来社 2002 268p ㊦:210.58/SH)

新選組隊士のさまざまな足跡のうち、ある程度までポイントを特定することができた場所を「史跡」として収録。基本的にその場所がどのような史資料に、どのように記されているかも明記されている。

「東日本編」には、北海道3市11町の「史跡」が取り上げられている。

「新選組と新撰組、どちらが正しいか?」

『新選組事典』では、隊士の日記や近藤勇の文書類、会津候からの書状などをとりあげている。近藤勇の文書では時に「選」を書き、時に「撰」を使っており、近藤から会津候へ差し出す公式な文書には「撰」の字が多いが、会津候が下した文書は「選」の字が多い。この資料では、「意味、内容に差し支えない限り音便にあてはめて自分の書きやすい字を自由に書く、これはこの時代の人たちにとり何の不思議もない書き方であったのかもしれない」とまとめている。

ちなみに当館資料をOPACで検索すると「新選組」-96件、「新撰組」-15件がヒット。どちらも併せて検索する場合はカナ入力で「シンセングミ」、あるいは“または”を使い「新撰組」または「新撰組」で検索するとどちらかを含んだ書誌を検索することができます。ご参考まで。

市町村のみなさんからの発信

国境の街の図書館員《手記》

根室市図書館 浅野正弘氏

「国境の空は、謎だらけ-ノサップ岬上空の撃墜事件 他」

昨年は「航空100年」、ライト兄弟の初飛行を記念し様々な行事等が催されました。6月には根室管内図書館協議会で、『ブックトーク』「航空100年」を、根室市図書館では秋の読書週間の展示で、「本展 航空100年・飛行機の本」(飛行機は本来、航空機のなかに含まれますが、便宜的に使用しました)。その時に集めた資料の中に、冷戦時、米・ソの交戦等資料がありました。冷戦時の記録は度々、道外・道内から、問い合わせがあります。幾つかの事件は、自分が飛行機に興味を持つきっかけとなりました。

2件のB-29の撃墜事件は、昭和27(1952)年10月7日、昭和29(1954)年11月7日に起き、最初の事件はソ連戦闘機に撃墜されノサップ沖に墜落、8名が死亡、2年後にもソ連戦闘機に撃墜され別海の上春別に墜落、乗員11名中、10名はパラシュートで脱出、1名は死亡(12名説も)。上春別に墜落時農家を破壊、米軍に対し賠償請求を貰った村長の対応は、中尾彰良著『村長後日物語 随感随想』に記されています。自分の記憶に間違いがなければ、昭和26年のクリスマスにサンタから玩具の飛行機B-29を貰い、父親に「B-29は、どんな飛行機か？」と尋ねたところ「戦争の時に、日本を焼け野原にした爆撃機」との説明がありました。どちらの事件かは定かではありませんが、当時冷凍工場に勤務し、米兵の遺体を冷凍庫に保管し、米軍に引き渡したと話していました。

日本にとって、B-29は忘れることの出来ない飛行機です。私事で恐縮ですが、数年前の夏、八王子の霊園でのできごとです。叔父の骨収め、お坊さんを待ちながら、お墓に刻まれた戒名、命日を眺めておりましたら、家族全員と思われるお墓が目につき、「命日は？」「昭和20年3月10日」ここも、あそこも。当時『根室空襲』の出版のお手伝いをしていたことで他の都市空襲、「東京大空襲」の3月10日はしっかり覚えておりました。骨収めが終わった後、改めて付近のお墓の命日を確認しましたが、やはり圧倒的に、3月10日「東京大空襲」を再確認致しました。『戦略・東京大空襲1945年3月10日の真実』には、原爆開発を上回る開発費をかけたB-29他、焼夷弾の記述があります。戦後、偵察型のB-29ではありますが、根室上空で2度も、撃墜されたことは、覚えておきたいと思います。

他には、昭和28年米軍リパブリックF-84サンダージェットと、ソ連のラボーチキン11戦闘機が交戦しました。平成14年2月21日付け『東奥日報』によるとソ連の戦闘機は、「日の丸」を付けて、日本の戦闘機を偽装していたとのこと。この3度の事件は、大事になる筈が、極めて小さく扱われており、謎が深まります。個人的には、調査を続けていきたいと思います。

< 参考図書 >

『忍従の海-北方領土の28年』(読売新聞社編 1973 読売新聞社) p86~93

『北の翼-千歳航空史』(守屋憲治著 みやま書房 1985) p230

『昭和二万日の記録 第9巻』(講談社 1989) p167:昭和モノがたり-ブリキ製輸出玩具

<10年経験者研修>報告

この研修は<教育公務員特例法第20条の3の規定に基づき、在職期間が10年に達した教諭等に対し、個々の能力、適性等に応じた研修を実施することにより、教科指導、生徒指導等に関する指導力の向上を図る>ことを目的として行われるものです。

当館では、石狩管内の小・中・高校勤務の先生(10名)が1月の3日間で業務体験されました。当課では、“資料の調べ方”で、2つのカリキュラム(資料を使って問題解決、参考図書-これは使える!お薦めします)を実習しました。

は、私たちの現場でもスキルアップに大変有効な手法です。まず参考図書コーナーから、イチオシの資料を1人1~2冊選択し、特徴や利便性等を記録票に記入。その後、実際に資料を見せ合いながら、選択した理由(新発見、基本的なもの、その他)を発表。特に、専門分野を持つ現役の先生たちの選択は、説得力あるものでした。了解を得て、その一端を紹介します。

[ほぼ記録票の表記に従って、一覧表にしました]

書名等	資料の特徴	こんなとき使える	担当教科 or 専門
『遊びの大事典 [本編]』(東京書籍 1989) ㊟R790.3/A	・遊びの本質を踏まえた各種の具体的な遊び(昔の遊び) ・競う、演じる、賭ける、感じる、作る、おもちゃの6部に分かれており、各分野ごとに遊びを収録 ・五十音索引あり	・日本の伝統的な遊び(昔の遊び)を知りたい(各部にあり) ・日本と外国との「遊び」観のちがいを知りたい(総論にあり)	保健体育 (小)
『遊びの大事典 実技編』(東京書籍 1989) ㊟R790.3/A	・各分野ごとの代表的な遊び(現代の遊びが多い) ・解説や指導のポイントも収録 ・遊び索引、五十音順	・人とふれあって、遊べる遊びを知りたい(感じる遊び) ・おにごっこなどの指導法を知りたい	
『ボールゲーム指導事典』(大修館書店 1993) ㊟783/B	・ボールゲームの競技支の特性、社会的意義、技能習熟、試合の論理、コンディショニングと技術および戦術の基礎練習の方法など総論的に扱っている ・バスケットボール、サッカー、バレーボール、ハンドボールの個別事例 ・重要事項の一覧表、図表、図解によってわかりやすく示している	・バスケットボール、サッカー、バレーボール、ハンドボールの指導者になったときに使える(練習の仕方から作戦など)	体育 (小)
『現代日本児童文学詩人名鑑』(日本児童文学者協会編 教育出版センター 1996) ㊟909.1/G	・戦後50年のわが国の児童文学の詩、童謡分野において活躍してきた詩人たちの紹介 ・詩人の経歴、詩集リスト、作風、現住所をまとめており、資料としての活用もできるようにしてある	・詩人の主な著書、代表作品などを 知りたい ・戦後の少年詩の歩みを知りたい ・子ども達に詩を読ませたい	国語 (小)
『回文ことば遊び辞典』(上野富美夫編 東京堂出版 1997) ㊟807.9/Ka	・2297種の回文・回文語を115の項目に分類し、50音順、音数順に配列してある ・成句、俳諧、短歌による回文を辞典として編んだもの ・回文文献年表あり	・回文とは何かを知りたい ・回文の作品を読みたい	
『科学者人名事典』(丸善 1997) ㊟403.5/Ka	・物理、化学、生物、地学、数学など科学の分野で、業績のある人物に限定した事典 ・各人物の業績、その分野、出身国、生没、エピソード等も書かれている ・アルファベット索引あり	・人物だけでなく、当時の時代や、他の科学者との関わりを知りたい	数学 (中)

書名等	資料の特徴	こんなとき使える	担当教科 or 専門
『世界宗教事典』(リ チャード・ケネディ 著 教文館 1991) ㊦R160.33/Se	<ul style="list-style-type: none"> 世界の様々な宗教について解り易く解説している 五十音順に検索できる 英文頁目索引あり 	<ul style="list-style-type: none"> インド人はなぜ、ターバンを巻くのか イスラム教徒はなぜ断食をするの? それはいつか(付録にあり) 	社会(歴史 地理 倫理) (高)
『図解単位の歴史辞典』 (柏書房 1989) ㊦R609/Z	<ul style="list-style-type: none"> 単位の起原について解説している 日本国内だけでなく、中国や西洋の単位にも精通している 単位の歴史的流れも、詳しく説明している 	<ul style="list-style-type: none"> 小判って、現代のお金にしたらいくらぐらい? 度量衡ってだれが決めたの? 基準は何か 	
『ニッポン人の暮らしの統計 2003 〔下〕』(生活情報セ ンター 2003) ㊦365.5/Ni/H15-[2]	<ul style="list-style-type: none"> 「暮らし」に関する最近データを豊富に収録 ビジネス、調査研究に必携の資料 第1章~第9章 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢別の消費性向を知りたい 平均睡眠時間を知りたい 	社会(地歴 公民) (高)
『ニッポン人の買い物データブック 2002』(生活情報セ ンター 2002) ㊦675.2/Ni/H14	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住をはじめとする、あらゆる生活シーン別、買い物データ集 企画、開発、マーケティング等に役立つ 	<ul style="list-style-type: none"> もらってうれしいプレゼントは何か知りたい クリスマス、バレンタイン、必殺の一品 高齢者の食べたいものランキング 	
『ウィナーズ 2000』 (新朝社 2000) ㊦780.59/W/H12	<ul style="list-style-type: none"> 1999年の内外スポーツ界の動向、大会結果を従来のスポーツ年鑑になかった新しい方法で収録したデータブック 記事篇、データ篇の2部に分かれており、テーマによって文章や写真で紹介している 	<ul style="list-style-type: none"> 1999年の主なスポーツ界の出来事を知りたい ラグビーのワールドカップの成績を知りたい 	保健体育 (高)
『トレーニング科学 ハンドブック』(朝倉 書店 1996) ㊦780.19/To	<ul style="list-style-type: none"> トレーニング科学に関する各論をまとめた書物 	<ul style="list-style-type: none"> トレーニングの方法 	
『解説字体辞典』(三 省堂 1986) ㊦R821.27/Ka	<ul style="list-style-type: none"> 口絵が多用されていてわかりやすい 字体を歴史的に解説する辞典 年表を使用し、どの時代から使われた字なのか分かる 楷書の書き始める部分で索引 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を書いていて、トメなのかハネなのか迷ったときに使える 書道をしていて、どちらが歴史的に正しいのか、美しいのか迷ったとき 漢字の歴史を知りたいときに読み物としても楽しめる 	国語 (高)
『文学作品書き出し 事典』(日外アソシエ ーツ 1994) ㊦R910.26/B	<ul style="list-style-type: none"> 明治以降 313 作家の小説冒頭部分を初出年順に収録(昭和5年まで) 「作品名」「作家名」「初語」索引あり 目次は年代順になっているので調べやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 書き出しは分かるけれど、作品名を忘れたとき 	
『武器』(マール社 1992) ㊦559/B	<ul style="list-style-type: none"> 様々な武器の歴史、用法、威力がわかりやすく解説されている武器のデータブック イラストも多く、見やすい構成 7章に分かれており、古代の武器から現代兵器までわかりやすく説明 	<ul style="list-style-type: none"> どの時代に、どの地域で、どのような武器が使われていたかすぐに分かる 戦争に対応した武器の使用 戦争に巻き込まれたとき 	社会 (高)
『薬物が起こす神経 障害』(メジカルビュ ー社 1997) ㊦493.7/Y	<ul style="list-style-type: none"> 薬物によって、どのような障害が起きるのかをわかりやすく解説 副作用もわかりやすく解説 薬害裁判にもふれている 	<ul style="list-style-type: none"> 薬物教育 公害問題や環境学習 生命の大切さ 	

書名等	資料の特徴	こんなとき使える	担当教科 or 専門
『川端康成文学語彙 辞典(スタジオVIC 1981) ㊦R910.268/Ka	・川端特有の擬態語、擬声語、象徴的意味 ・色彩に関する語彙 ・社会的事象に関する語彙 ・宗教的雰囲気を示す語意	・川端文学を深く読み込みたい ・作家の経歴や思想と表現との関連を知りたい ・あまりポピュラーではない川端作品に触れたい	国語 (高)
『大江からばななまで』(日外アソシエーツ 1997) ㊦910.26/O	・80年代から90年代以降に活躍する作家についての研究状況、評価、主要文献	・現代作家についての論文やレポート制作の足がかりとしたい ・どのような研究や評価が既になされているのかを知りたい	

注：専門の後に、所属の小・中・高校を、(小)(中)(高)で略記

研修を終えて…

当別町立西当別小学校教諭 荻澤雪絵氏

今回縁あって、道立図書館で研修をさせていただきました。

私の勤務地には、図書館がありません。学校の図書館も、今年度から司書教諭が配属され、これから活性化されるというのが現状です。そのためどうしても、調べ学習などは、インターネットに頼りがちです。

しかし、今回の研修で目からウロコ…。実際にレファレンス研修をしてみたのですが、調べ方には実にたくさん方法があり、司書の方は、実に的確に多様なアドバイスをして下さいます。書物から調べるってこんなに、奥深いものなのか…という発見もありました。私の技術不足かもしれませんが、インターネットだとなかなか思い通りに検索できなくてイライラしますが、本からだと不思議と目的とするところにいきついたり、他の知識も得られたり、とても得した気分。また一つ勉強させていただきました。

研修を終えて、これから子供達に還元していきたいこと、それは、図書の本数をふやすこと以上に正しい調べ方を伝えること、その手助けができるよう、道や市の図書館からたくさんの情報を得て、たくさん手段を学ぶこと…そう感じた3日間でした。

札幌西高等学校教諭 稲川幹雄氏

図書館にはこれまでも何度か足を運んだことはありましたが、その中での仕事という面ではさほど気に留めたことはありませんでした。

今回3日間ではありましたが図書館業務を経験できたことは大変有意義なものでした。「図書館」というものの持つ役割の重要性を改めて認識いたしました。普段何気なく目にしても、ある程度の期間が過ぎてしまうと忘れられてしまったり、捨てられてしまうようなものが保管されていることを知らされた時、とても頼もしい存在として映りました。

中でも参考調査課の「資料を使つての問題解決」では検索方法の具体的内容を知ることができ、今後の図書館の利用に大いに役立たせることができると思いました。また、問題から「キーワード」を特定し情報を入手するといった手法については、日常の生徒指導に対しても問題解決学習に応用が出来るように思われ、参考になりました。自身ではうまく回答を出すことが出来ずに四苦八苦しましたが、図書館職員の皆さんはそれらを日常的にこなしているのだと思うと頭が下がります。

短い3日間ではありましたが、その中身はとても充実した3日間でした。多忙な時間を割いて懇切丁寧に指導して頂きました職員の皆様には感謝申し上げます。

はじめは...

レファレンスは、図書館員の専門性として捉えられながらも、現場では“習うより慣れろ、経験と場数を踏んでレベルアップする”、できる人が個人的力量で...。そして、ややもすればベテラン職員が不在になると...? という程度の位置づけであるようにも思われます。(皆さんの館ではどうでしょうか?)

きっかけは、東京「三多摩レファレンス探検隊」の道案内人である斎藤文男氏(通称シェルパ斎藤 現富士大学図書館学課程主任教授)の研修(日図協中堅職員ステップアップ研修 平成12.12~13.1 於日図協)を受講し、技術習得方法の可能性を感じたことが大きいことでした。また、某町図書館の方が半日ほど当課に滞在し、パソコンに向かって演習し“何となく〔当課の標準動作が〕わかった”とおっしゃっていただいたことがありましたが、その時点で、(今ふり返ると)軽々にも現スタイルの研修を開始することを思い立ったのでした。

始めよう!と課員一致で踏み出したものの

大卒の研修イメージがあっただけで、マニュアルなし情報蓄積なしの“なし尽くし”で、課員個人の工夫を互いに盗み合い(?)、受講者に学びつつ修練していったようです。初期参加の方には迷惑だったでしょうが、募集趣旨“共に学びあう”を糧として、協同作業を3年間模索してきたことになります。

実務にフィットした役立つ研修に近づけるべく、事前の宿題(回答演習 シェルパ斎藤方式?)が必須でした。また、研修者館の所蔵資料傾向を知ることは大事なことでした。途中からですが、事前確認のために、都立多摩図書館発行の『「こいつは使える!」R 本あなたの10冊』を活用しました。チェックすることから、研修はもう始まっていることになります。そのようなことも経験の中で取り入れました。また、地域資料や分類に関する要望も増え、北方資料室・資料課などが分担しました。さらに、せっかく遠方から来館されたので、館内各課や書庫を巡る時間もプラスしたので、大変詰め込んだ日程となるのが常でした。

成果とあゆみ

本研修は、複数共通ではない個人個別の方法をとりました。一般的に研修効果の検証は、長期的または短期的な観点及び主観的・客観的評価が相俟って行われるのだと思います。所期の目的を果たし得ているかについては受講者に判断を委ねることとし、現時点ではそれを措き、本誌記事をたどることで研修の動きをお伝えします。

テスト版4号(平成13.5)p6: **レファレンス体験研修 実施!**

cf.平成13年度上半期の実施要項を掲載。別にちらしをつくり、研究集会や館外奉仕課(現市町村支援課)の移動図書館車巡回時にも配付し、PRした。

1号(平成13.6)p9: **市町村図書館職員レファレンス体験研修 第1号(?)終了!!**

cf. NEWS欄の冒頭に、当課のほっとした状況が...

2号(平成13.8)p4~5: **レファレンス体験研修を終えて**

cf.第1号修了者に特別インタビューと題して、カリキュラムおよびQ&A形式で

3号(平成13.11)p7: **平成13年度市町村図書館職員レファレンス体験研修 上半期終了**

cf. NEWS 欄で 6 回(6 名)終了を報告

5 号(平成 14.3) p1~8: **市町村図書館職員レファレンス体験研修特集**

cf. 1 年間の経過報告。実施要項・実施したカリキュラム・受講者アンケート・受講者(1 名)の投稿記事・参考調査課員によるレファ研をふりかえって ほか

6 号(平成 14.4) p1: **今年もやります。「レファレンス体験研修」**

cf. 「今年の参考調査課はこうなります。」中の平成 14 年度お知らせ記事

7 号(平成 14.6) p6: **道立図書館レファレンス体験研修に参加して**

cf. 市町村のみなさんからの発信欄 として、14 年度第 1 号受講者からの投稿

9 号(平成 15.1) p16: **市町村図書館職員レファレンス体験研修特別講座《インターネット活用初級編》ご案内**

cf. 2 年目の総まとめとして、初めてインターネットに特化した研修(半日)を企画した。要項および申込書。当館 HP でも PR

10 号(平成 15.3) p5~8: **私の図書館(or 私)の《お気に入り》に入っている HP はこれだ!!!**; cf. 9 号で募集したインターネット特別講座は 10 名程度の募集に対し 17 名の参加があった。参加者から事前資料の提出を願い連載記事『Librarian's Box 』としてリスト化し掲載 / **差し上げます。特別講座レジュメ普及版**; cf. 特別講座で事前の宿題・おすすめ HP などを A 判 100p のテキストとしてまとめた。しかし、希望者は 1 名のみだった! /

「平成 14 年度市町村図書館職員レファレンス体験研修」を終えて; cf. 2 年目のカリキュラム傾向等を含めた総括報告

3 年間の受講者は

総計 26 回 50 名(特別講座 17 名含)。平成 13 年: 13 回 16 名、14 年度: 8 回 27 名(特別講座 17 名含)、15 年度: 5 回 7 名。50 名の内訳は、市: 24 名(全体の 48%)、町: 17 名(34%)、公民館図書室: 9 名(18%)。経験年数は最長 19 年で、平均すると 5.5 年。

終了して、そして今後

“個人個別のレファ研”は、講師・受講者お互いがきつい部分があるかも知れませんが、本誌 5 号 レファ研特集号 で当課員が「教えることは学ぶこと」との感慨を述べていますが、その意味で“真に研修できた”のは当館側であったということで、今後とも研鑽に努め、また、相互理解が深まったことによるメリットを生かし、回答業務にこれを還元していく財産にもなりました。

今後については、次年度開催についての照会もあり、要請があれば実施したい。また、主題を絞った内容(例: インターネット)や、当館以外の研修場所を設定するなどの多様な対応も増えるのかも知れません。()

「自館には、レファレンスの需要はない」と聞くことがあります。本当でしょうか? カウンターで、全く質問を受けないことがあるのでしょうか? 資料(読書)案内と考えるとどうでしょう。レファレンスは、図書館の存在を実感してもらえる最適のサービスです。今、図書館を取巻く情勢は大変に厳しいですが、図書館力を高める有効な手だてになることを確信して、この稿を終えます。

参考 12 号(平成 15.9) p10: 「レファレンス体験研修 今年も好調・出前研修も!」; cf. NEWS 欄。インターネット講座を根室管内で出前研修。 13 号(平成 15.12) p11: NEWS 欄記事; 恵庭市立図書館職員研修会「レファレンス業務の実際」講師 / 紋別地区図書館(室)職員等研修会(於西興部村公民館)。「レファレンスツールとしてのインターネット」講師

NEWS

1 課員動勢 < 各種研修に参加 >

平成 15 年度北海道高等学校図書館研究会（主催:北海道学校図書館協会 1月13日～14日）桑原が13日参加し、国立国会図書館副館長大滝則忠氏の基調講演「国立国会図書館、そして学校図書館」、学校図書館の利用者教育について高校や大学図書館における実例発表を聞きました。

平成 15 年度政策形成（係長）研修（3月3日～5日 於北海道自治政策研修センター）加藤が参加。3日間寄宿舎泊まりでみっちり学びました。

2 「レファレンス体験研修」48,49,50人目の方々受講（関連記事：p7~8）

1月20～22日に中標津町図書館の上石さんが、2月18～19日には稚内市立図書館の白坂さんと上湧別町図書館の北村さんが同日受講されました。カリキュラムの組み方によっては、他館の人と一緒に参加できます。興味のある方は当課までご連絡ください。

3 平成 15 年度 10 年経験者研修一行当館へ（関連記事：p4~6）

在職期間が10年に達した教諭等を対象とした研修(主催:石狩教育局 1月13日～15日)に、石狩支庁内の小・中・高の先生10名が来館しました。レファレンス課題に挑戦したり、お互いのおすすめのツールを紹介しあうなどの研修をしました。

4 当館ホームページの参考調査課情報

『北海道雑誌新聞総合目録』、道内市立図書館全掲載なる

“一部市立を除く”としていましたが、この度、道内全市立図書館（34館）の所蔵データが掲載されました。町村立図書館の所蔵情報についても随時追加更新中。また、購入誌名や保存期間の変更等がありましたら適宜お知らせください。

文献目録 No.25 『北海道立図書館所蔵新聞目録』（PDFファイル 626KB）掲載

2003年7月に発行した冊子体のPDF版です。見るためには Acrobat Reader が必要です。

5 参考調査課のメールアドレス変更

北方資料室共通の次のアドレスに変わりました。

toshokan.hoppo1@pref.hokkaido.jp

< ご存知でしたか? >

学習指導要領と図書館

JLAメルマガ No.190によれば、文部科学省は、昨年12月26日学習指導要領の改訂を行い、総合的学習に関連し、図書館の位置づけを強める内容を加えたそうです。

「学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫をすること。」

総合的学習開始にともなう公立図書館現場の対応の実情について、JLAから文部科学省へ説明したことへ、応えたものとのことです。

<再度のお願い FAXのスイッチについて>

当館からファクスでレファレンス回答を送信しても、土・日曜日や夜間などは、なかなか受信されないことが少なくありません。休館時はファクスのスイッチを切るところが多いのかもしれませんが、常時「オン」にしていただくか、何時から何時まで（または何曜日）は着信不可と付記していただくと助かります。ご協力をお願いします。

編集後記

平成15年度は公私共々いろいろありました。変に忙しい1年でした。これを書いている現在も予定では終わっているはずの作業が終わっていない状態。無事に新年度が迎えられるのやら心配です。
< o n >

どんなに冬が長くとも、春が訪れるのが自然の理。ありがたいものです。しかし、今、図書館を取り巻く厳しい冬には何の約束もありません。春を呼ぶのは私たち図書館に関わる者の力だけです。これからも一緒に“頑張りまっしょい！”(KU)

私も公私共々色々あった平成15年度でした。1年間厳しく温かくご指導いただいた内外の図書館の方々と、すべてにおいて協力してくれた家族に深く感謝します。来年度は一人前にバリバリ働くことで恩返しをしていきたいと思えます。〔I〕

本誌と同封（予定）の『北海道雑誌新聞総合目録』を編集中です。昨年の市立図書館購入雑誌の改訂に、町村立図書館のデータを加えてボリュームアップの1冊です。分野別索引もご利用ください。< H >

やっぱり、「レファレンスサービス」の分かりやすい邦訳名を思考した方が良いです。全国公募で決める方向の運動を立ち上げましょうか？ しかし、何と表現しましょうか。10年経験者研修の感想を伺って、こちらも新鮮なパワーを与えられました。うれしいことです。やっぱり、レファレンスはタノシイ！（み）

今回も、根室市の浅野さん、10年経験者研修の先生方と、道立図書館の外側からの寄稿で本誌を盛り上げていただきました。年度末のお忙しい中、本当にありがとうございました。予定通り『Do-Re』を、なんとか4冊発行でき、安堵しています。〔ひ〕



Do - Re (どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の略から

名付けました。 しかしながら、

“ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do - Re

北海道立図書館レファレンス通信 14(通巻 18 号)

発行年月日 平成 16 年 3 月 25 日

編 集 北海道立図書館参考調査課

発 行 北海道立図書館

〒 0 6 9 - 0 8 3 4 北海道江別市文京台東町 4 1 番地

Tel 011-386-8521 Fax 011-386-6906

ホームページ <http://www.dokyoi.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>
